

## 日本助産学会ニュースレター

発行所 日本助産学会  
〒102-0071  
東京都千代田区富士見1-8-21  
東京都助産婦会館内  
電話・FAX 03-3221-0417  
e-mail: jam1987@ninus.ocn.ne.jp  
代表者 堀内成子

## 巻頭言

## 第19回日本助産学会学術集会へのお誘い

— 出産・子育てを支える助産ケア：人と環境の視点から

Midwifery Care for Childbirth and Child Rearing: Human and Environmental Perspectives

第19回日本助産学会学術集会会長  
宮中文子

第19回日本助産学会学術集会は2005年3月19日（土）～20日（日）に京都で開催いたします。本学術集会は、メインテーマを、「出産・子育てを支える助産ケア：人と環境の視点から」としました。人と環境を Human and Environmental の言葉を使用しましたので、助産学の環境として広過ぎる印象をお感じになるかもしれませんが、テロによる対立の世界的環境さえも女性と子どもとその家族の福祉に関わる環境であることから、人々が関わり合い結び合う心理・社会的な側面から、助産師と女性および協働する人との関わり方を捉えようと考えました。現代、女性は男性と同様に社会的能力が発揮できる存在と認識されるようになり、今日では、男女共同参画社会の実現が推進され、生涯にわたる女性の健康とその権利が求められ、社会的な課題となっています。こうした動きにある今日こそ、助産師が女性と子どもとその家族へ最善のケアを提供していく機会であり、また、そのための理論や技法を探求することは重要であると考えています。このような視点から、講演やシンポジウムおよびワークショップを企画いたしました。

第1日目には、特別講演として「京都の伝統文化：冷泉家の年中行事」と題し、和歌の家である冷泉家に伝わる年中行事についてご講演いただき、皆様を京都の文化へいざないたいと思います。教育講演「高度専門職としての助産教育」では、専門職大学院での助産学教育についてご講演いただき、専門職としての助産教育のあり方を考えたいと思います。「近代における産婆活動」では、産婆が職業として確立した時代に活躍した産婆の生き方を通して、今の助産師に何を語りかけているのかを捉えてみたいと思います。また、その産婆教育の黎明期についての展示を計画しています。

2日目には、シンポジウム「健やか親子21における助産師活動」として、京都での助産師の実践についてご報告いただき、全国の活動状況との情報交換を通して、助産師が医療・保健・福祉の施策へいかに参画・協働していくかを考えたいと思います。ワークショップは5つ設定しました。根拠に基づく助産ケアを実践に応用する方法について報告していただく「根拠に基づく助産ケアの実践」、日本の助産師はどう国際的協働できるかについて現状と課題を探るため、「国際的協働による助産師活動を探る」、出産から家庭育児までの過程の全体を通したハイリスク新生児と親への援助のあり方について「ハイリスク新生児と親への発達のケア」、医療ルネッサンスともいわれる新たな取り組みについて、「助産院と病院の助産師達による新たな取り組み」、子ども虐待やDVの予防について、他職種との連携の中で助産師の役割を探る「子ども虐待とDVの予防における助産師の役割」とし、それぞれにおいて参加者の皆様と共に討論し深めていきたいと

思います。一般演題もこれまで行ってきた助産ケアに関する研究や新たな助産の実践に関する報告など興味深い演題が多く寄せられています。皆様の日頃の教育・研究活動、助産の実践活動から得られた知見をご報告頂き、討論を通して結び合い関わり合いを相互に深めていただければと思います。

多くの皆様のご参加をお待ちいたしております。

## 平成15年度収支決算および平成16年度予算について

平成15年度総会后に、一般会計収支決算書の予算額、差異に一部計算の誤り、平成16年度特別会計予算に数字の誤りが発見されました。決算書に関しては、平成16年7月3日に再監査を行い、7月30日の理事会で審議し、訂正したものをここに掲載します。会員の皆様にはまことに申し訳ございませんでした。

### 平成15年度 一般会計収支決算書

(別表1 平成15年度 一般会計・特別会計収支決算書 を入れてください。)

### 平成16年度 特別会計予算書

(別表4 平成16年度 一般会計・特別会計予算書 を入れてください。)

### 平成15年度総会時会計に関する報告

#### 1) 一般会計収支決算報告

収入：20,083,399円 (会費、繰越金他)  
支出：12,908,821円 (会議費、事業費、事務費他)  
繰越金：7,174,578円

#### 2) 特別会計収支決算報告

学術集会基金：	収入 7,112,310円	支出 2,000,140円
学術奨励基金：	収入 15,077,900円	支出 1,601,470円
ICM 評議会等出席費用積立金：	収入 797,559円	支出 391,220円
国際援助基金：	収入 5,337,340円	支出 4,050,280円
セーフマザーフード基金：	収入 240,000円	支出 0円
スポンサー・ア・ミッドワイフ基金：	収入 24,000円	支出 0円

### 審議事項

#### 1) 平成16年度一般会計予算案審議

収入：19,875,578円 (会費、繰越金他)  
支出：16,259,000円 (会議費、事業費、事務員費等)  
繰越金：3,616,578円

#### 2) 平成16年度特別会計予算審議

学術集会基金：	収入 7,112,170円	支出 2,000,000円	残高 5,112,170円
学術奨励基金：	収入 13,476,430円	支出 1,600,000円	残高 11,876,430円
ICM 評議会等出席費用積立金：	収入 606,339円	支出 0円	残高 606,339円
国際援助基金：	収入 1,287,060円	支出 1,000,000円	残高 287,060円

セーフマザーフード基金：	収入	240,000円
	残高	240,000円
スポンサー・ア・ミッドワイフ基金：	収入	24,000円
	残高	24,000円

文責 会計担当 岸田 佐智

## 平成15年度 特別会計収支決算書

1 学術集会基金	収 入	支 出	残 高
繰越金	4,112,142		
第18回学術集会に貸出		2,000,000	
第17回学術集会より返金	2,000,000		
第17回学術集会より寄付	1,000,000		
振り込み手数料		140	
預金利息	168		
合 計	7,112,310	2,000,140	5,112,170
2 学術奨励基金	収 入	支 出	残 高
繰越金	15,031,778		
委託研究助成 (2件)		1,000,000	
奨励研究助成 (2件)		600,000	
振り込み手数料		1,470	
寄付金	46,000		
預金利息	122	0	
合 計	15,077,900	1,601,470	13,476,430
3 ICM 評議会出席費用積立金	収 入	支 出	残 高
繰越金	597,559		
第7回ICMアジア太平洋会議出席費用		390,380	
平成15年度積立	200,000		
振り込み手数料		840	
預金利息	0		
合 計	797,559	391,220	406,339
4 国際援助基金	収 入	支 出	残 高
繰越金	5,287,087		
平成15年度活動費		4,050,000	
振り込み手数料		280	
寄付金	50,000		
預金利息	253	0	
合 計	5,337,340	4,050,280	1,287,060
5 セーフマザーフード基金	収 入	支 出	残 高
繰越金 (H15.1.31現在)	196,000		
H15.2.1-H16.1.31	44,000		
合 計	240,000		240,000
6 スポンサー・ア・ミッドワイフ基金	収 入	支 出	残 高
繰越金 (H15.1.31現在)	2,000		
H15.2.1-H16.1.31	22,000		
合 計	24,000		24,000

## 会計監査報告

日本助産学会の平成15年度一般会計および特別会計収支決算について平成16年7月3日に再監査を執行した結果、適当と認めます。

監事

浅生慶子

小木曾みよ子

## 報告

## — スコットランドの助産師教育：NES —

京都府立医科大学医学部看護学

母子看護・助産学部門 宮 中 文 子

## NES : NHS Education for Scotland

スコットランドの助産師教育は、英国の体制の中で、NES (NHS Education for Scotland) という独自の教育制度を持っている。英国における一般看護教育プラス18か月の専門教育と、看護教育を経ない助産学教育としての大学での3年間の教育(ダイレクトコース)はスコットランドでも同様で、登録前の助産学プログラムの最低基準は高等教育修了で従来どおりである。NESではこれに加えて、スコットランドの学位(Scottish Ordinary Degree)に相当する単位が含まれる。そのため、助産師は全て学士以上であり、修士を持つ助産師も約25%就労している。この登録前の助産学プログラムに加え、卒後教育として、さまざまな教育プログラムがあり、専門職としての能力が修得できる内容となっている。

NESという独自の教育制度の特徴として、2002年4月に出された「Subject benchmark statements: Midwifery (助産学の基準規定書)」がある。ベンチマークとは、登録前までに満たされるべき最低基準の教育内容であり、「女性と子どもとその家族に対するエビデンスに基づくケア」の実践を重視した助産学プログラムとして、幅広い学問と実践に基づき検討され作成されたものである。登録前資格についての厳しい基準が設けられたのは、英国全体における高度専門職教育の変革の中で、1992年より国家試験はなくなって以後である。NHS(国民保健サービス)の助産師教育専門官は、このベンチマークに基づき、各教育機関における教育の質を保証するための支援や指導・監督を行っている。また、NESは、The Royal College of Midwives(王立助産師協会)のRefocusing the Role of the Midwife(助産師の役割)を支持し、また、Nursing and midwifery council 2002(英国看護師・助産師・保健師中央審議会)のCode of professional conduct(助産師綱領)を踏まえたものとなっている。助産学は応用科学(Human biological sciences and the social sciences)と位置付けられ、学士以上の教育とすることとされる。助産学プログラムには学位資格に応じていること、イギリスおよびEU諸国共通でなどの必須項目を含むこと、登録のための法定資格を含む基準であることが必要であり、①法定取締機関指定助産師規則33、②登記官書簡35/2000、③欧州連合(EU)助産師指令(80/155/EEC 第4条)などを含んでいる。また、助産師の規定能力は、学位に関わらずNMC(看護師、助産師、巡回保健師)登録簿第10条(助産師)に登録されるための条件が必要とされる。登録前の助産学教育プログラムは、大学と実践の2側面の学習であり、実習の規定では、①妊婦健診数100例、②褥婦ケア100例、③分娩介助40例で、妊婦・産婦・褥婦を継続して40例の実習が課せられている。現在も助産学実習は授業全体の約55%を占めており、従来からの実践的な教育が重視されていることを改めて認識できた。

## ベンチマーク

ベンチマークの内容は、トライアングル・フレームという3つの側面：「A : Professional knowledge and understanding (専門的な知識と理解)」「B : Professional skills and abilities (専門的な技術と能力)」「C : Professional values, accountability and development (専門的な価値観、実践の義務、発達)」がある。各側面とその相互作用を検討するためにプログラムが設計されて

いる。たとえば、表1に示すように、ベンチマーク「母子の保健ニーズを特定し評価するために適切な知識、スキル、道具そして機器を利用すること」について、B 専門的な技術と能力についてみると、Expected features（期待される特色）は、①助産ケアにおいて適切な道具や枠組みを利用し、また身体的、精神的、社会的、文化的な各側面を考慮しつつ、母子について総合的、計画的なアセスメントを行うこと。②ケアの内容と優先順位を決定するために、母子や家族についてのリスク・アセスメント関係を含めた必要な情報をまとめること。③ヘルスニーズを特定し、ニーズが満たされるために適切なヘルス促進戦略を利用すること。④これらのアセスメントの正確な記録をとることとなっている。この内容は我々の使用する到達目標にきわめて近い。その内容に関する Competencies（コンペテンシーズ：能力）が12項目ある。全体でコンペテンシーズは29項目ある。これは ACNM のコア・コンペテンシーズとも対応するように思われる。全ては紹介できないが、よく検討し、詳細に教育内容が整理され構成されているもので、教育機関において、最低基準が満たされるための教育内容として、また教育評価に利用できるものとなっている。今、我が国でも助産学教育の到達目標を明かにする必要性がいわれている。これまでに全助協での助産基礎教育におけるコア内容の報告書（2002）や、看護基礎教育での大学卒業時の到達目標の報告書（2004）があるが、このベンチマークに比較して十分とはいえない。このベンチマークからは多くの示唆が

得られるものと思われる。

（本文は、平成15年3月に、大学間相互交流にて渡英した際、エジンバラの Professional Officer of Midwifery, NHS) の Monica Thomson さんにお会いし、スコットランドの助産師教育（NES：NHS Education for Scotland）について資料の提供を受け、説明していただいたもの（一部である）。



**表1 B : Professional Skills and Abilities (専門的な技術と能力)**

Benchmark (基準)	Expected features (期待される特色)	Competencies (能力)
母子の保健ニーズを特定し評価するために、適切な知識、スキル、道具そして機器を利用すること	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 助産ケアにおいて適切な道具や枠組みを利用し、また身体的、精神的、社会的、文化的な各側面を考慮しつつ、母子について総合的、計画的なアセスメントを行うこと</li> <li>2. ケアの内容と優先順位を決定するために、母子や家族についてのリスク・アセスメント関係を含めた必要な情報をまとめること</li> <li>3. ヘルスニーズを特定し、ニーズが満たされるために適切なヘルス促進戦略を利用すること</li> <li>4. これらのアセスメントの正確な記録をとること</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠前、妊娠中、出産時、産後の各段階において、女性とその家族と効果的なコミュニケーションを図る</li> <li>2. 妊娠前、妊娠中、出産時、産後の各段階において、一連の評価方法を用い、妊娠の診断と妊娠の経過・アセスメントを非リスク的に行い、危険のある、慎重でできる、計画的な結論にいたる</li> <li>3. 女性のために、以下のようなケアとサポートのためのプログラムを決定し提供する             <ul style="list-style-type: none"> <li>- 母子とその家族のニーズ、状況、文化、運路に照らしている</li> <li>- 女性とのパートナーシップにおいて作られる</li> <li>- 協力的である</li> <li>- 個性と強制的な規範に基づく</li> <li>- 保護上の結果の改善が予想できる場合は、他の専門家の協力を得る</li> </ul> </li> <li>4. 出産時の段階で、女性と他のケア提供者とのパートナーシップにおいて以下のようなケアと介入を提供する             <ul style="list-style-type: none"> <li>- 女性のアセスメントされたニーズ、状況、文化に照らしている</li> <li>- 女性の継続的な態度と権利を促進する</li> <li>- 妊娠に基づいている</li> <li>- リスク管理に照らしている</li> <li>- 母性の保健結果を導くために他人のスキルと資源を使用する</li> </ul> </li> <li>5. 他者のスキルと知識が女性のために必要と思われる場合、その人を紹介する</li> <li>6. 対応するために必要なスキルとして妊娠のある者を紹介すべきである</li> <li>7. できるだけ早い時期に紹介すべきである</li> <li>8. 紹介する際には、紹介する理由、女性のニーズと好みなど、正確で、実証的な情報を提供しやすい形で提供すべきである</li> <li>9. 以下の条件を満たす記録を作成して保存する             <ul style="list-style-type: none"> <li>- 正確で読みやすい</li> <li>- 互にならば対応についてその説明の記録が含まれる</li> <li>- 記録の目的が満たされるように情報が十分である</li> </ul> </li> <li>10. ケア・プログラムの効果を監視し、母子とその家族にとって結果が改善するよう対応を行う</li> <li>11. 個人の権利、安心、好み、信仰と文化を尊重するように実践を行う。</li> <li>12. 既述の目的に基づいて実践を行う。</li> <li>13. 情報の守秘性を守る。</li> <li>20. 他の専門職と以下のような関係を作る。</li> <li>26. 助産師の實踐に対して、保護師の評価可能な促進の手法を反応する</li> </ol>

## Japan Academy of Midwifery

## 第19回日本助産学会学術集会 第2報

## 出産・子育てを支える助産ケア：人と環境の視点から

Midwifery Care for Childbirth and Child Rearing: Human and Environmental Perspectives

第19回日本助産学会学術集会の第2報をお届けします。多くの皆様のご参加をお待ちいたしております。

第19回日本助産学会学術集会会長 宮中 文子

---

■ 1. 会期・会場 期日 2005年3月19日(土)～20日(日)  
会場 国立京都国際会館

---

## ■ 2. プログラム

## ● 第1日 3月19日(土)

---

会長講演 13:10～13:50  
出産・子育てを支える助産ケア  
・演者 宮中 文子(京都府立医科大学)  
・座長 福井トシ子(杏林大学医学部付属病院)

---

特別講演 13:50～14:50  
京都の伝統文化：冷泉家の年中行事  
・演者 冷泉貴実子(冷泉家当代夫人)  
・座長 堀内 成子(聖路加看護大学、日本助産学会理事)

---

総 会 14:50～15:50

---

教育講演1 15:50～16:50  
高度専門職としての助産教育  
・演者 近藤 潤子(天使大学)  
・座長 平澤美恵子(日本赤十字看護大学)

---

教育講演2 16:50～17:40  
近代における産婆の活動－「ある近代産婆の物語」をとおして  
・演者 西川 莩子(甲南大学)  
・座長 坂井 明美(金沢大学)  
展示「産婆の黎明期における産婆教育と出産」(京都府立医科大学助産史研究会)

---

懇親会 18:00～20:00 国立京都国際会館 宴会場スワン

---

## ● 第2日 3月20日(日)

---

シンポジウム 9:30～11:00  
健やか親子21における助産師活動  
・座長 我部山キヨ子(京都大学) 座長 今井 順子(済生会京都府病院)

---

- ・演者 本庄 英雄 (京都府立医科大学)
- ・演者 原田 節子 (京都第一赤十字病院)
- ・演者 竹田 典子 (京都府不妊専門相談センター)
- ・演者 岡嶋 文恵 (京都大学)

**ワークショップ1 11:00~12:30**

根拠に基づく助産ケアの実践

- ・座長 柳原真知子 (天使大学)
- ・座長 宮城万里子 (琉球大学)
- ・演者 島田三恵子 (浜松医科大学)
- ・演者 島田真理恵 (東京慈恵会医科大学)
- ・演者 村上 明美 (神奈川県立保健福祉大学)
- ・演者 谷津 裕子 (日本赤十字看護大学)

**ワークショップ2 13:30~15:00**

国際的協働による助産師活動を探る

- ・座長 毛利多恵子 (日本助産学会国際援助システム委員会)
- ・座長 大石 時子 (宮崎大学)
- ・演者 藤原 美幸 (日本助産学会国際援助システム委員会)
- ・演者 JICA 研修生
- ・演者 嶋澤 恭子 (滋賀県立大学)

**ワークショップ3 15:00~16:30**

ハイリスク新生児と親への発達のケア

- ・座長 末原紀美代 (大阪府立看護大学)
- ・座長 脇田満里子 (奈良県立医科大学)
- ・演者 宮川祐三子 (大阪府立母子保健総合医療センター)
- ・演者 近藤 好枝 (慶応義塾大学)
- ・演者 木下 千鶴 (杏林大学付属病院)
- ・演者 横尾 京子 (広島大学)

**ワークショップ4 9:30~11:00**

助産院と病院の助産師達による新たな取り組み

- ・座長 多賀 佳子 (多賀助産院)
- ・座長 柳吉 桂子 (京都大学)
- ・演者 芦田千恵美 (出張助産師)
- ・演者 茂岡 恵里 (薫風会佐野病院)
- ・演者 西条 洋美 (大阪厚生年金病院)

**ワークショップ5 11:00~12:30**

子ども虐待とDVの予防における助産師の役割

- ・座長 今関 節子 (群馬大学)
- ・座長 坂間伊津美 (茨城キリスト教大学)
- ・演者 片岡弥恵子 (聖路加看護大学)
- ・演者 佐山 光子 (新潟大学)
- ・演者 森光 幸枝 (京都第二赤十字病院)
- ・演者 浜頭 直子 (上京保健所)

**■ 3. 日程概要**

	9:00	9:30	10:30	12:00	12:30	13:00	13:10	13:50	14:50	15:50	16:50	17:40	18:00	20:00
第1日 3/19 (土)	新理事 会	理事会	評議員 会	新評 議員 会	会場 オリ エン テーション	会長 講演	特別 講演	総会	教育 講演	教育 講演			懇親 会	
第2日 3/20 (日)		シン ポジ ウム	ワー クシ ョッ プ			ワー クシ ョッ プ	ワー クシ ョッ プ	ワー クシ ョッ プ	閉会 式					
		ワー クシ ョッ プ	ワー クシ ョッ プ			一般演題(口演)								
		一般演題(口演・ポスター)				一般演題(口演・ポスター)								
	9:30			12:30		13:30				16:30				

**■ 4. 参加費**

1) 学術集会:

- ①前納 会員:8,000円 非会員:9,000円 学生(大学院生を除く)及び一般4,000円
- \* 2月4日までに納入の方には学会集録を事前に送付致します。

- ②当日 会員：9,000円 非会員：10,000円 学生（大学院生を除く）及び一般4,000円

\* 2月5日以後に納入の方は当日参加費となります。

医療関係者以外一日券：2,000円

2) 懇親会：

①日時：平成17年3月19日（土）18：00～20：00

②会場：国立京都国際会館 宴会場スワン

③会費：5,000円

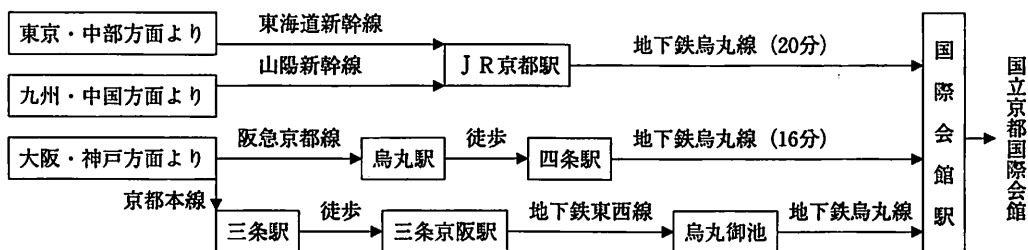
3) 参加費振り込み先：郵便振替 口座番号：00970-0-265370

加入者名：第19回日本助産学会学術集会

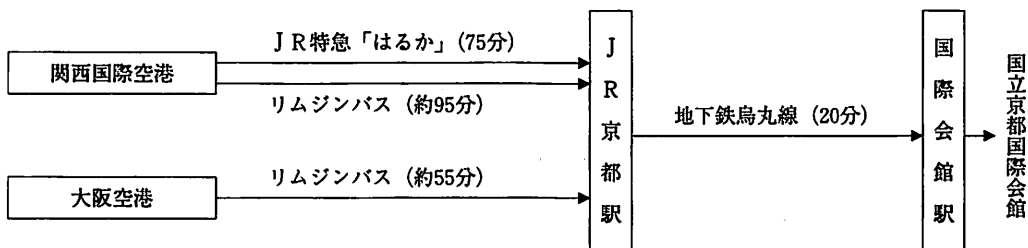
\* 振り込み用紙はお一人一枚の使用をお願いいたします。

一度振り込まれた参加費は返金できませんのでご了承下さい。

■ 5. 会場へのご案内



飛行機をご利用の場合



■ 6. 宿泊先のご案内

JTB 京都支店（担当：崎山／電話：075-361-7241）に連絡下さい。

■ 7. 連絡先

第19回日本助産学会学術集会事務局

〒602-0857 京都市上京区清和院口寺町東入中御霊町410

京都府立医科大学医学部看護学科 母子看護学・助産学部門

TEL・FAX：075-212-5440（宮中） 075-212-5445（松岡）

URL <http://jam19.umin.jp>



## ◆◆◆委員会報告◆◆◆

## 国際援助システム委員会

(委員：毛利 多恵子)

ネパールからの研修生3名が、2004年1月8日から2月22日まで「自然で安全な助産」研修を終え、無事帰国され8ヶ月が過ぎようとしています。研修終了時には、それぞれが帰国後のアクションプランを作成し持ち帰りました。その後、現地からの報告によると、研修の学びが現場で生かされているようです。長いお産で不安になった家族への対応、産婦さんの楽な姿勢での援助、微笑みながら生まれることをまつ姿など、女性とあかちゃんにやさしいケアを実践されており、ケアが確実に変化しているそうです。助産雑誌6月号では、研修生がクローズアップで取り上げられ、「自分たちの国にもすばらしいことがあることに気づきました。」「もっと女性にとってのお産の経験を大切にしたい。」など、研修で得たことを語っています。

12月にはネパールの安全情報を確認しながら、現地に研修評価に行く予定です。研修は、どのようにネパールの母子たちに届いているのでしょうか？研修はどのように生かされ、またどのような課題を残しているのでしょうか？

このように研修生が日本での研修を意義深く感じられた背景には、多くの研修先での皆様の温かい受け入れがあつてのことです。深く感謝申し上げます。

現地評価訪問後は、研修報告書を作成する予定です。



## 国際委員会

(委員：加納)

### 1. ICM ニュースレター記事より (2004年7・8月号)

#### 1) ICM 中央ヨーロッパ地域でのワークショップ「帝王切開は、女性が選択する権利の一つか？」2004年4月にウイーンにて開催

発展途上国および先進国にかかわらず中央ヨーロッパの助産師たちは増加する帝王切開率に関心を持っている(例として、オーストリア15-30%、ドイツ22%、オランダ24-27%など)。メンバー各国から帝王切開率に関する現状を報告しあい、今後の検討課題について討議した。その結果、十分な研究成果に基づき産科医、助産師が話し合いを重ねること、助産師教員は、学生たちがは女性とともにいて、自然な出産を支援するのが助産の本来の仕事であることを学習できるように努力する必要性がある、という意見が出された。そして具体的な3つのアクション・プランの合意に至った。

1. ブリスベンのICM評議会で、ヨーロッパ地域と国際産科婦人科連盟の支持を得て新しく所信声明を作る。
2. ブリスベンでのワークショップ草案の基礎になる科学的論文を準備する。
3. 各国代表のために行動計画を打ち立てておく。

#### 2) 「世界の母と子どもを救うために、国際助産師連盟と国際産科婦人科連盟が協力し合う」

Kathy Herscherfer, ICM 事務局長

地球規模の活動の中で、国際助産師連盟(以下ICM)は国際産科婦人科連盟(以下FIGO)と緊密に連携しながら「安全な母性と健康な子ども」を推進してきている。ICMは、この「安全な母性と健康な子ども」に関しては、FIGOの作業委員会の一員になっている。FIGOはこの委員会から提案された「母と子を救おう(saving mothers and newborns)」という活気あるプロジェクトを立ち上げている。

この企画は、「安全な母性と健康な子ども」のプロジェクトの発展と遂行する上で、国際的な産科医の団体を支援し、特に助産師団体との国際レベルでのパートナーシップを促進しようとするものである。これは、助産師団体が母体および新生児死亡・罹患率を減らし、各国の状況に応じた母子へのケアを改善するために、産婦人科医団体と力を合わせる機会にもなっている。助産師団体がさらにアイデアをもって産科医たちと協働していけることを期待する。詳細は、次のwebsitesを参照されたい。

[www.internationalmidwives.org](http://www.internationalmidwives.org) and [www.figo.org](http://www.figo.org)

#### 3) 第27回国際助産師連盟大会会告

主 催：オーストラリア助産師協会  
会 長：Caroline Weaver  
開催時期：2005年7月24-28日  
場 所：オーストラリア国、ブリスベン

### 2. アフガニスタンで助産師として、医療協力を行った日本の助産師からの手紙

クラン知さんは、過去数回アフガニスタンに国際的NGO組織「国境なき医師団」の派遣でアフガニスタンの母子のために働いてきています。最近の赴任は2004年3月末まででした。彼女から、助産学会ニュースレター宛にお便りをいただきましたのでご紹介いたします。

「お元気でいらっしゃいますか？」

アフガニスタンでの三度目の年越しを迎えました。今回はアフガニスタン中央山岳地域のパーミヤンにある病院で三ヶ月ほど働きました。私のパーミヤンに対する最初の印象は、お墓でした。あの有名な大仏像（跡）を中心として数キロの溪谷には簡素な新しいお墓が無数に存在していました。パーミヤンの住人はタリバンに対し蜂起し壊滅した経緯があり、タリバンの破壊・略奪の傷跡が街にも人々の記憶にもまだ生々しく残っています。一方で市場には様々な食料・物があふれ、物流の回復を物語っています。歴史的に抑圧され続けてきたハザラ族の人々はタリバン政権崩壊後、新しく与えられた政治的・教育的、そして職業の自由・機会について希望をこめて語ってくれます。

アフガニスタンでは約92%の女性が訓練された医療者の介助を受けることなく、家庭で家族や伝統的産婆に介助され分娩をします。圧倒的な医療施設・医薬品の不足、交通手段の不足、遠距離に居住する、家族の反対などといった理由で異常を認めたとしても女性が病院を受診できるまでには様々な障壁があります。パーミヤン病院での分娩は月30件弱ほどでその80%ほどが何らかの異常を伴っています。

〈静寂〉という言葉が正常分娩をぴったりと表せるように思いました。4～5経産であることがほとんどなので、慣れたものです。分娩室を歩き回り、陣痛発作中は家族がお腹を押さえ、一言も発しません。裂傷もできません。分娩後も死産ならばひっそりと泣き、元気な新生児ならば格別な喜びを見せるわけでもありませんが、淡々と抱っこをして顔を見つめています。妊娠・出産は1大イベントではなく、彼女達の生活の一部でしかない、と感じられる瞬間です。

パーミヤン病院の妊婦検診（妊健）は月200件を越え、外来を通し様々な女性の生活を窺い知ることが出来ました。

10代の未婚の女性が無月経を主訴に外来へやって来たことがありました。レイプによる妊娠で彼女は茫然自失の様子でした。名誉を重んじるアフガニスタンでは未婚の妊娠は男女ともに命がけの出来事です。地域のモラー（宗教指導者）によっては男女共に石打に処せられます。例えレイプでも男性が逃げてしまっても女性には行く場所がありません。そのような女性の支援団体に関する情報を求めに、女性省（Ministry of Women's Affaire）を訪れ、得られたのは「結婚前に妊娠する女性は存在しない」と主張する担当者言葉のみ。カブールにあるNGOと連絡が取れ、準備は整ったもののその女性は病院に戻ってきませんでした。妊娠を家族に知られ、家族の名誉を守るために殺されたか、危険な中絶を試みたか、のどちらかと思われます。

パーミヤンもカブールも復興ラッシュで多くの援助団体が活動をしています。しかし物的な復興と異なり、妊娠の度に命を危険にさらしているアフガニスタンの女性が Reproductive & Sexual Health に関する自由を享受出来るようになるまでにはまだ長い時間がかかることでしょう。」

#### クラン（渡辺）知さんの略歴

東京都生まれ。聖路加看護大学卒業後、新宿区の聖母病院に勤務。

1999年に国境なき医師団に参加し2003年までの間に計3回アフガニスタンへ派遣される。現在ラオス在住。



## 子どもを亡くした母親たちと共に (2)

### セルフヘルプ・グループ活動の実際

聖路加看護大学大学院博士後期課程 太田 尚子

前回は、セルフヘルプ活動に参加して、私が感じたことや学んだことを書かせていただきました。今回は、「お空の天使パパ&ママの会」(WAIS)の実際の活動や参加した母親たちの様子について、ご紹介したいと思います。WAISは、流産・死産・新生児死亡などで子どもを亡くした母親たちのセルフヘルプ・グループで、インターネットのホームページ上での意見&情報の交換、セルフヘルプミーティングの主催、会報の発行などを主な活動内容としています。私が関わっている関東支部では、毎月1回、東京ウィメンズプラザを中心に、体験者のお話を開催しています。

最初に、会のなかで飛び交う言葉からご紹介しましょう。会では、子どもを亡くした母親を「天使ママ」、父親を「天使パパ」、そして亡くなった子どもを「天使ちゃん」と呼んでいます。この呼称からは、母親たちが亡くなった子どもを深く愛し、たとえ子どもが亡くなっても、子どもがいると認識していること、また親になったと自覚していることを読みとることができます。

次にお話会の内容について説明しましょう。お話会は、参加者それぞれが、自分の体験や子どもへの思いなどを自由に語る自己紹介から始まります。最初は、涙が溢れてほとんど語れない人もいます。それでも、他の参加者は詮索したり質問をしたりせず、語りが再び始まるのを静かに待ちます。沈黙が続くこともありますが、語っている母親にとっては、その沈黙も、心に向き合う大切な時間です。また母親たちは、流れるままに涙を流します。涙を流すこと、語ることによって、悲しみや辛さから自分を解放していくのだと思います。一人で泣くのではなく、他の人の前で涙を流すことに意味があるようです。

参加した母親たちは、ただ泣いているだけではありません。お話会に出てくる話題も、実に様々です。例えば、子どもとの思い出づくり、介護の方法、亡くなった子どもとのつき合い方、家族関係や社会生活での戸惑いや困難、友人や社会とのつき合い方、日々の暮らし方、医療に対する思い、次回の妊娠などがあります。さらに話題は、死生観や人生観に発展することもしばしばです。お話会は、体験者同士の慰め合いの場であるだけでなく、語り合いを通して、悲しみを乗り越えていく術を学び、生きる智慧やパワーを獲得していくエンパワーメントの場でもあるのです。初めて参加した母親のなかには、4時間の語り合いの時間が短く感じられたと感想を述べる方もいるほどです。母親たちは子どもを亡くした悲しみばかりでなく、社会に理解されにくい孤独感、周囲の言動に傷つけられるなど、大変辛い思いをされています。家庭のなかでも外でも語るができなかった、閉じこめられた思いを一気に、あるいは徐々に表出していくことで、少しずつ心を整理していきます。その変化は、会に来たときは、真っ青な表情のないお顔で現れた方が、4時間後に、晴れやかな赤いお顔に変化していく様子からもうかがえます。そのくらい、体験者同士の語り合いというのは力づけられる体験なのだと思います。ある母親は、参加後の気持ちを「ジェットコースターを降りたときのような気持ち」「重荷をおろしたような軽やかな気持ち」と語ってくれました。お話会によって、母親たちの悲しみは軽減したり無くなったりするわけではありませんが、会の終わりには、分かり合えた喜びや表出できた満足感に溢れた、母親たちの笑顔に出会うことができます。

その他、会では、子どもの産着などをつくる手作りの会、ピクニック、また宿泊でのお話会なども開催しています。そして、今年9月には、聖路加看護大学看護実践開発研究センターとWAISとの合同主催のお話会、

「天使の保護者ルカの会」を立ち上げました。子どもを亡くした悲しみを抱えた体験者がお近くにいらっしゃいましたら、ご紹介いただければ嬉しく思います。

#### ◆天使の保護者ルカの会

ホームページ: <http://plaza.umin.ac.jp/artemis/npdrc/tensi.htm>

連絡先 (E-mail): [osoranotensi@slcn.ac.jp](mailto:osoranotensi@slcn.ac.jp)

#### ◆お空の天使ホームページ

(関東支部) <http://www.h4.dion.ne.jp/~wais.kt/>

(本部) <http://wais.moo.jp/>

# 母子にやさしいケアを実現するために

(産科病棟の混合化に関する実態と改善に関する啓発事業)

## フォーラムへのお誘い

みなさんの出産は病院でしょうか？病院では、病気の方と一緒に病棟で、出産時に助産師に十分なケアを受けましたか？安全で快適な場でしょうか？

女性の人生の中でも忘れられない思い出となる出産体験は、その後長く続く母親としての自覚や子育てのスタート地点であります。

昨年の調査報告によると、日本の病院の75%は産科と婦人科、小児科、内科、外科、救急等と混合病棟化という結果です。国は「健やか親子21」で、妊娠・出産の安全性と快適さの確保を掲げています。病院の混合病棟の中での出産は安全で快適でしょうか？混合病棟で助産師が成長できるシステムはないのでしょうか？皆様と一緒に母子にやさしい環境や看護職が成長できるユニットを考えませんか？多数の皆様のご参加をお待ちしております。

- 日 時：平成16年11月27日（土） 13：00～16：30（関西地区）  
平成17年1月29日（土） 13：00～16：30（関東地区）  
会 場：関西地区（京都市ササケ公園東地区サイエンスホール）定員230名  
関東地区（星稜会館・千代田区永田町）定員350名  
参加費：無料

- 13：00 オリエンテーション&挨拶  
13：10 基調講演  
産科診療の特質を生かした管理システム……奥村元子（中央ナースセンター）  
13：30 産科病棟の混合化に関する実態報告……村上睦子（日赤医療センター）  
13：45 話題提供  
看護部から独立した病院内助産院システム…石村朱美（佐野病院）  
妊産婦から選ばれる産科を目指して……江角二三子（深谷赤十字病院）  
14：40 「アイデアを探そう」 司会：関西（柳吉桂子）関東（福井トシコ）  
看護師・助産師の成長：関西＝清水智絵（淀川キリスト教病院）  
看護職が元気になるユニット：関東＝島田智織（茨城県立医療大学）  
医師の立場から：北島博之（大阪府立母子保健総合医療センター）  
混合病棟でのケアの体験を通して：入院経験者（消費者）  
16：30 終了

### 参加申し込み：

往復はがきで、参加希望会場、および所属、お名前、参加人数、連絡先を記入し、関東地区での参加の方は、11月20日までに、関西地区での参加は17年1月20日迄にお申し込みください。定員を超えた場合はその旨連絡します。

### 申し込みおよび問合せ先：

〒102-0071 東京都千代田区富士見1丁目8番21号  
TEL：03-3262-9910 FAX：03-3262-8933  
社団法人日本助産師会

日本健康科学学会20周年記念シンポジウムのご案内  
「世界的規模の視点からのサプリメントの理解と適切な使用  
～安全で安心できる食文化の浸透をめざして～」

シンポジウム実行委員長

信川 益明 (日本健康科学学会会長)

- 【日 時】 平成17年1月22日 (土) 10:00～17:00 (受付開始 9:00～)  
【会 場】 東京医科大学病院 臨床講堂 6階 (椅子席320名)  
〒160-0023 東京都新宿区西新宿 6-7-1 TEL:03-3342-6111  
【申込先・問合せ先】 日本健康科学学会シンポジウム事務局  
〒164-0001 中野区中野 2-2-3  
株式会社へるす出版事業部内  
TEL:03-3384-8037 FAX:03-3380-8627  
Mail: health-sci@horusu-shuppan.co.jp  
HP: http://www.hs.jpu.ac.jp/HS/index.html

＊ ICM スポンサー・ア・ミッドワイフ (国際基金) の募金者 (5名)

榎下いく子、川原淳子、鈴木恵子、宮里和子、蛭田由美

＊セーフマザーフード基金の募金者 (5名と1団体)

榎下いく子、川原淳子、鈴木恵子、宮里和子、蛭田由美、  
徳島大学国際助産師の日記念事業促進会

\*\*\* 募 金 の お 願 い \*\*\*

本学会では、下記の募金を受付けています。  
会員の皆様のご協力をお待ちしています。

- ＊ ICM スポンサー・ア・ミッドワイフ (国際基金) の募金について  
発展途上国の助産師の参加用援助としての募金です。一口2,000円です。

振替口座番号: 00190-8-710931  
加 入 者 名: 日本助産学会国際基金

- ＊セーフマザーフード基金の募金について  
世界で妊婦死亡率および罹病率が最も高い地域における助産の知識の発展を支援するための募金です。一口1,000円です。

振替口座番号: 00240-8-6818  
加 入 者 名: 日本助産学会 ICM セーフマザーフード基金

(会計: 岸田)